

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—82637

⑪ Int. Cl.³
B 60 N 1/10
A 47 C 4/04

識別記号
庁内整理番号
7438—3B
6417—3B

⑬ 公開 昭和56年(1981)7月6日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ 車両用座席

八王子市台町2丁目23番10号

⑮ 特 願 昭54—160088
⑯ 出 願 昭54(1979)12月10日
⑰ 発 明 者 金井茂

⑱ 出 願 人 立川スプリング株式会社
昭島市松原町3丁目2番12号
⑲ 代 理 人 弁理士 伊藤貞 外2名

明 細 書

発明の名称 車両用座席

特許請求の範囲

座席の脚体を平行リンク及びY字状リンクから成るリンク機構により形成し、該脚体を折畳むことにより上記座席のシートクッションを床面に築地若しくは近接できるようにしたことを特徴とする車両用座席。

発明の詳細な説明

本発明は車両用座席、特に貨客両用の多目的車両の折畳み座席に関するものである。

貨客両用自動車は荷物を積載する場合、後部座席のシートバックを前倒してシートクッション上に重合し、その上に荷物を載置するように構成されているが、従来のこの種座席はシートバックをシートクッションとの間に設けられたヒンジから単に前倒する構造のため荷物を載置した場合の荷重がシートクッションの脚部に加わることになるので荷物の粗暴な積下し等により脚部を破壊或いは損傷するおそれがあり、また荷物の積載室は前

倒したシートバックと天井との間の空間により形成されることになるが単にシートバックを倒伏するだけでシートクッションの高さが変わらないため積載空間は然程大きく形成できなかった。

そこで本発明はかかる点に鑑みてなされたものでシートクッションの脚部をリンク機構によつて構成し、荷物の積載時においては脚部も折畳みシートクッションを直接床面に接地できるようにした車両用座席を提供するものである。

以下図面について本発明の一実施例を説明する。

第1図は本発明を適用した座席の配置の一例を示し、図において(1)は本発明を適用した後部座席で、(2)は運転席を含む前部座席である。

第2図以降について本発明を適用した後部座席(1)を詳細に説明する。後部座席(1)はシートバック10がシートクッション12に対して両側部においてヒンジ装置13により起伏自在に取付けられており、ヒンジ装置13にはシートバック10の後方への倒伏を阻止すると共に起立状態を維持するロック部材14が設けられている。

(1)

(2)

またシートクッション22の下面両側部にはリンク機構によつて構成される一組の脚体15'が配設されている。この両脚体15'は左右対称に構成されるので一方の脚体15'についてのみ説明し他方の脚体15'については図面上一方の脚体15の構成部材と対応する部材の符号に(') 記号を付して説明を省略する。

この脚体15はシートクッション22側に固定される上部フレーム18と床面下に固定される下部フレーム17との間を可動片18と19により形成される平行リンクと支持片20、20'、22'により形成されるY字状リンクとにより連結して構成されている。即ち上部フレーム18と下部フレーム17に対して可動片18及び19は夫々両端部を軸ピン(23a)(23b)及び(24a)(24b)により枢着して平行リンクを形成し、また支持片20と20'は同長でこの両支持片20'20'と他の支持片22'との一端部を支持ピン22'により互に回動可能に軸支し、第1の支持片20'の他端を軸ピン(26a)により下部フレーム17に、上記可動片18の枢着部(23b)より外方に位置して枢着し、第2の

(3)

18'に対して水平に位置させた状態で軸ピン22'が係合される第2の凹部(29b)から構成されている。なお、この両凹部(29a)と(29b)の間に1箇所又は数箇所凹部を形成してもよい。更にこの操作レバー30は先端にハンドル32を突設してあり、また先端部と下部フレーム17との間にはスプリング36が架張されて常時下方に偏倚させてある。

このようにして脚体15と(15')が対称的に構成される。

そこで両脚体15(15')が同時に動作されるように第3の支持片22と(22')の軸ピン22'と(22')との間及び操作レバー30と(30')との間を夫々連結杆34及び34'により連結して連結杆34と下部フレーム17(17')の間には支持片22(22')を起立させる方向に偏倚させるスプリング36(36')を架張し、また可動片18と(19')との間を横振れ防止のために杆材38により連結する。なお、第3の支持片22(22')は操作レバー30(30')を逃げるように下半部を屈曲してあり、また可動片18(19')には、倒伏時に連結杆34及び34'を逃げる逃げ溝38'が形成さ

(5)

支持片20'の他端は軸ピン(26b)により上部フレーム18'に、可動片18が下部フレーム17'と同一線上に水平に倒伏回動したときの上部フレーム18'に対する枢着部(23a)の位置と上記第1の支持片20'の下部フレーム17'に対する枢着部(26a)の位置との間隔Aと同間隔で支持片18の枢着部(23a)から内方へ離隔した位置に枢着してあり、また第3の支持片22'の他端部には軸ピン22'を突設し、その軸ピン22'を下部フレーム17'に可動片18と19の枢着部(23b)と(24b)の間において長手方向に形成した案内溝22'に移動自在に係合してY字状リンクを形成している。

また下部フレーム17'には案内溝22'に相対して上記第3の支持片22'の軸ピン22'に係合される複数の係合凹部29'を形成した操作レバー30'が軸ピン22'により上下方向に回動自在に軸支されており、この操作レバー30'の係合凹部29'は上記第3の支持片22'が最大限に起上した状態、即ち上下部フレーム18'と17'が最大限に離隔した状態で軸ピン22'に係合される第1の凹部(29a)と支持片22'を下部フレーム

(4)

れている。

次に以上のように構成される本例座席の動作を説明する。

先ずシートバック10をヒンジ装置13を回転中心として前方へ倒伏しシートクッション22の上に重合する。

次いで操作レバー30(30')をハンドル32(32')を引き上げるにより上方に回動し係合凹部29(29')の第1の凹部(29a)(29a')を第3の支持片22(22')の軸ピン22'(22')より離間してその係合を解除し、この状態でシートクッション22を前方へ押すと、第3の支持片22(22')は軸ピン22'(22')が案内溝28'(28')に沿つて移動し、他の第1、第2の支持片20(20')、20'(21')との枢着部25(25')を回転中心として回動し、これに伴い第1、第2の支持片20(20')、20'(21')も回動可能となり、この支持片の枢着部は第2の可動片20(21')の下部フレーム17(17')に対する枢着部(26a)(26a')を中心とする円弧状の軌跡を描きながら移動し、第2及び第3の支持片20(21')及び22(22')は下部フレーム17

(6)

(17')に沿い、また第1の支持片20(20')は第2の支持片21(21')と重合するように回動され、これに伴い可動片18(18')及び19(19')も倒伏回動されて各可動片及び支持片が折畳まれることになり上部フレーム16(16')は下部フレーム17(17')上に重合されシートクッション12は床面F上に直接接地された状態となる。ここでハンドル32(32')の引き上げを解除すると操作レバー30(30')はスプリング33(33')により下方に回動され、第2の凹部(29b)(29b')が倒伏移動された第3の支持片22(22')の軸ピン27(27')に係合してロックし、各可動片及び支持片の倒伏状態が維持される。

またこの状態で第4図に示すようにシートバック11の側面に、上端部において軸ピン27によりスプリング34を介して軸支すると共に保持具24に係合保持して取付けられたアーム25を保持具24より外して下方へ回動し、その下端を床面Fに突き当てることによりシートバック11の支持脚とすることができ、このアーム25を床面Fに対してロックするようにすればシートバック11の支持と跳上り

(7)

の脚体を平行リンクとY字形リンクとより成るリンク機構により構成し、床面まで完全に折畳むことが出来るようにしたので座席のシートクッションは床面に直接接地させることができ荷物の積載時において荷室スペースを充分確保できると共に安定した荷物の積載面が形成できて荷物を多量にまた確実に積載でき、しかも荷物の粗暴な積下しにおいても不要に揺動したり脚体に損傷を与えるおそれがなく荷物の積下し作業を容易に行うことができ、また座席の折畳み、復元操作は前後方向の押圧操作により円滑に行うことができる等の効果を有する。

図面の簡単な説明

第1図は本発明による座席の配設例の側面図でAは通常状態、Bは折畳状態を示す、第2図は本発明による座席の一例の一部省略した側面図、第3図は同脚部の斜視図、第4図は同アーム部の断面図である。

図中(1)は座席、11はシートバック、12はシートクッション、15(15')は脚体、16(16')は上部フレ

(9)

を防止できる。

一方この様に折畳んだ状態から復元するには操作レバー30(30')を上方に回動し、係合凹部29(29')の第2の凹部(29b)(29b')と第3の支持片22(22')の軸ピン27(27')との係合を解除し、この状態でシートクッション12を後方へ押すことにより第3の支持片22(22')は軸ピン27(27')が案内溝28(28')に沿って後方へ移動し各支持片及び可動片は夫々の枢着部を回転中心として起立回動されて上部フレーム16は下部フレーム17より離間し、シートクッション12は後方へ移行しながら上昇して元の位置に戻る。この動作はスプリング36(36')の偏荷力により円滑に行われる。

このようにしてシートクッション12を戻した状態でシートバック11を起立させる。

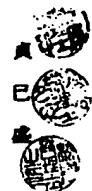
なお、シートバック11のバックフレームはパネルにより形成し、この裏面にカーペットを接着することにより荷物室の床面が体裁よく形成されることになる。

以上のように本発明によれば多目的車両の座席

(8)

ーム、17(17')は下部フレーム、18(18')、19(19')は平行リンクを形成する可動片、20(20')、21(21')はY字形リンクを形成する支持片、27(27')は軸ピン、29(29')は係合凹部、30(30')は操作レバー、Fは床面である。

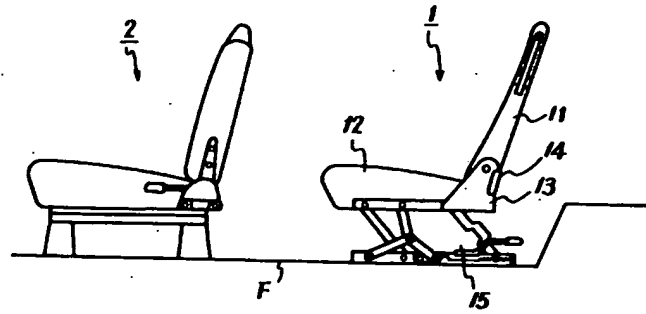
代理人 伊藤 仙谷 克巳
同 松 隈 秀 成



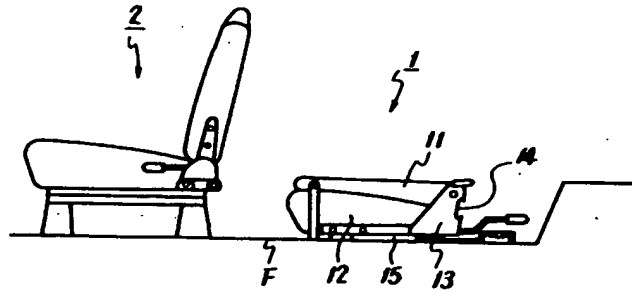
(10)

第 1 図

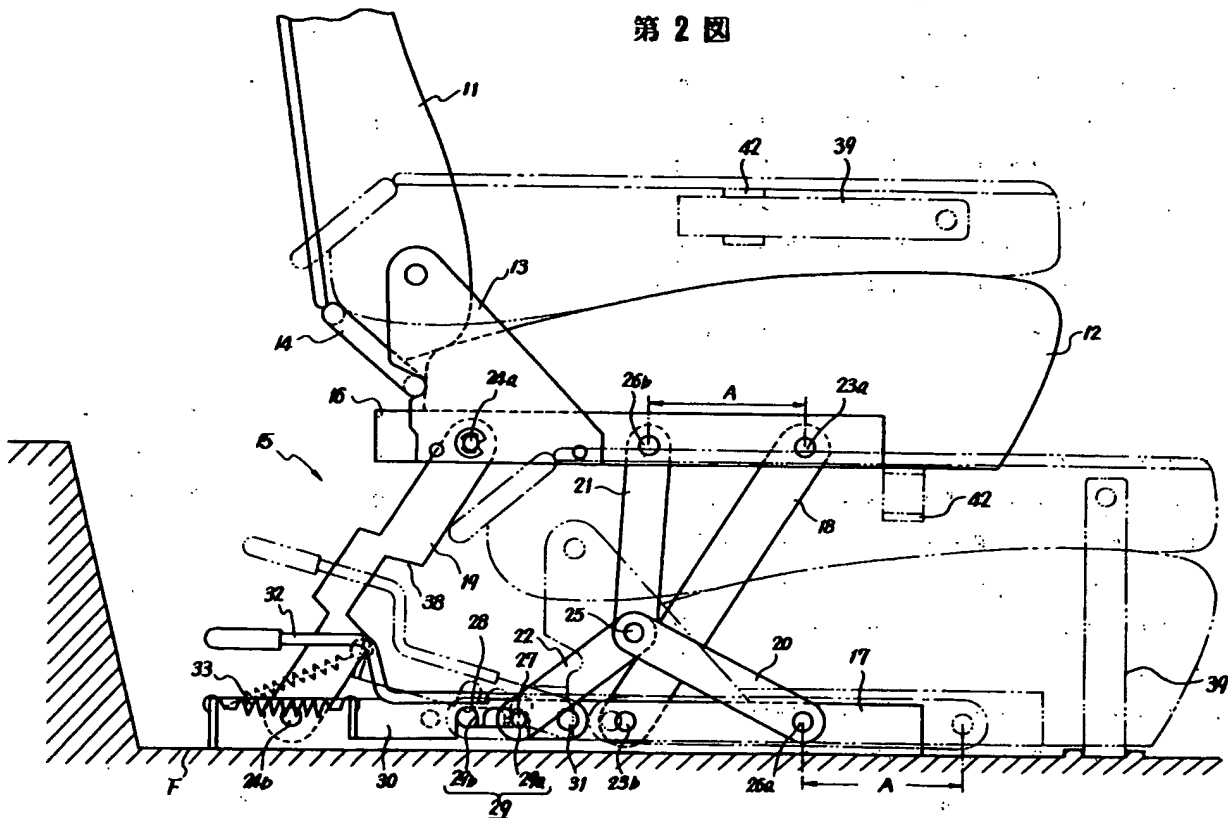
A



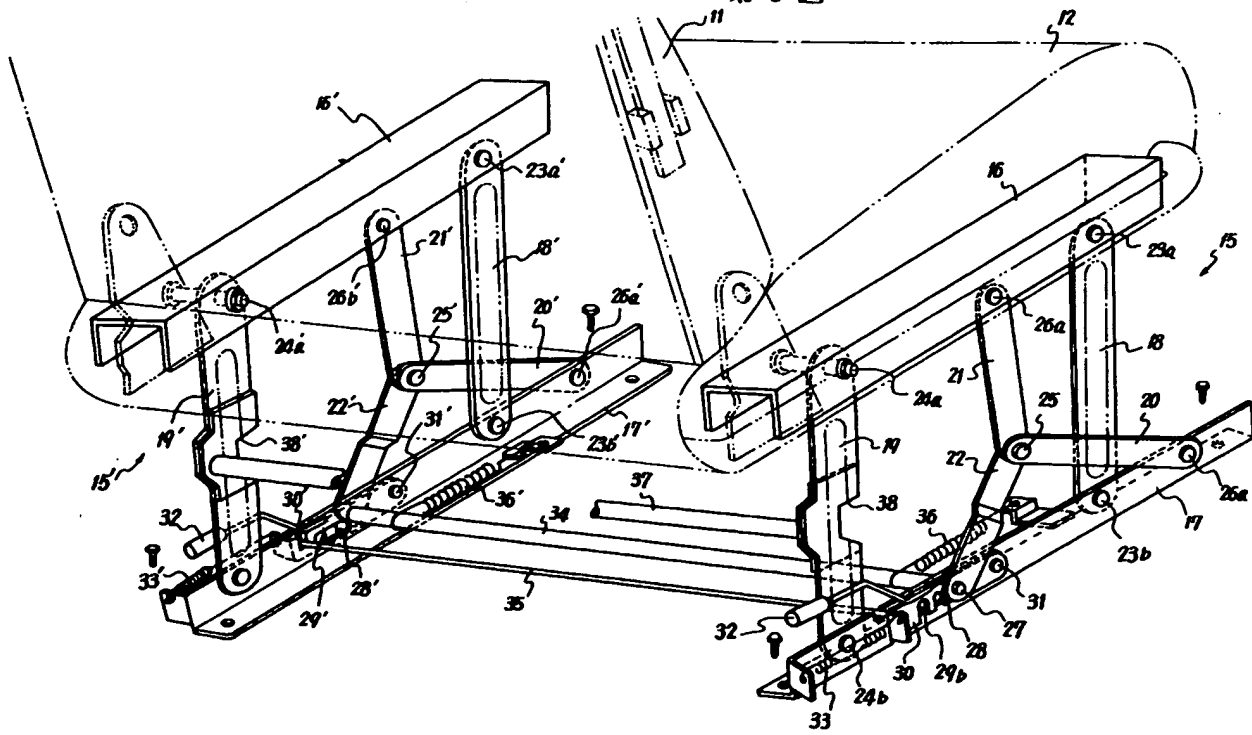
B



第 2 図



第 3 図



第 4 図

